

薬物乱用者の告白・相談事例

1. 乱用者の告白事例

大麻乱用者の告白 (20代、男性)

私が大学生になったばかりのことです。地元の先輩から、「ハッピーはいいぞ。リラックスして楽しくなる。」と大麻を勧められたのです。私はそれまで一度も大麻を吸ったことがなく、なんだか怖いような気がしてどうしようかと思いました。

先輩は更に「体に悪いことはないし、俺を見て見ろよ、なんともなっていないだろ。それとも怖いのか、度胸がねえなあ。」と言ってきました。たしかに先輩の見た目はなんともないよう見えたので、少し粹がる気もあって、先輩と一緒に大麻を吸ったのです。

大麻煙草を吸うと、ひどい臭いがして、とても不味く、その上動悸がして目が回り、しまいには気持ち悪くなって吐いてしまいました。

私は、大麻を何度か吸って慣れてしまえば、先輩達が言っている大麻の良さがわかるのではないかと思って、その後も大麻を吸い続けました。

大麻を何度も吸っていると、吸っても気持ち悪くなることは無くなり、とてもリラックスしてきて気持ちのよい感覚を味わうようになりました。そして、甘いものがとても美味しく感じたり、音楽が深く理解できるような感じにもなりました。

こうして、私は大麻を勧めた先輩から大麻が無くなる度に買うようになり、気づいたときには大麻は私の生活の一部で大きな楽しみになっていました。私は大麻を一人で使うだけではなく、交際していた彼女にも大麻を勧めて吸わせるようになりました。

ある日、先輩から、一緒に大麻を栽培しようと言われました。先輩は、仲間数人と一緒に大量の大麻を栽培し、収穫した大麻を売って金を儲けていました。

私の実家は農家で、小さい頃から両親を手伝っていたので、農作物の栽培の知識や経験がありましたので、先輩は私に大麻を栽培させたほうが収穫量も増えると考えたようでした。

私自身も、自分で栽培すれば大麻の収穫量を増やせる自信はありましたし、何より栽培してればいつでもタダの大麻が手元にあるだろうし、吸いたいときに大麻が吸えると思って先輩の大麻栽培仲間に加わることにしたのです。そして、私は収穫した大麻を彼女と一緒に吸うだけではなく、彼女も巻き込んで一緒に大麻を売って金を稼ぐようになりました。

栽培も初めの年は、先輩達も手伝ってくれましたが、翌年から先輩達はたまに様子を見に来るくらいで、私一人に栽培をやらせ、先輩達は収穫のときしか手伝ってくれませんでした。

そういう生活を3年ほどしていたある日、私が大麻を売った客が麻薬取締官に逮捕されました。私は初めて自分が逮捕されるかもしれないと急に怖くなり、先輩に大麻

の栽培を辞めさせてほしいと伝えましたが、先輩は何を言っても止めさせてくれませんでした。どうしようかと思いましたが、違法なことをしていたので家族にも相談できませんでした。

そして、また先輩から大麻草を渡され、いつ捜査官が来るのか不安になりながらも、彼女と一緒に実家で大麻草を育てていたところ、麻薬取締官が実家に来て逮捕されました。

私は逮捕される時は自分一人だけが逮捕されるものだと勝手に思っていたのですが、彼女も逮捕され、とても驚きました。

私はそれまで、深く考えること無く、毎日が楽しければいいやと思って、大麻を吸って過ごしていましたが、私の軽率な行為が家族にも迷惑をかけることになりました。

私が大麻を教えたせいで、彼女も逮捕されて職場もクビになり、家族を悲しませ、彼女の人生を大きく狂わせることになりました。

私は逮捕され勾留されている間、彼女を巻き込んだことを後悔し、苦しみました。私は刑務所に行ってもいいから、彼女は早く釈放してほしいと思いました。そして私は起訴され、裁判で執行猶予突きの判決を受けました。

そして、私が捕まってから6年になります。執行猶予も切れませんでした。捕まってから大麻を一度も使っていませんし、もう大麻を使いたいとも思いません。今にして思えば、彼女と深くわかりあえるような気持ちは、大麻がもたらした錯覚だったのかもしれない。

今私は、自分の会社を立ち上げる準備をしています。良い農作物を作ってもそれを完売できない農家がたくさんいることを知り、この農家のために、インターネットを使って全国に販売する会社を作るつもりです。

大麻乱用者の告白 (30代、男性)

私は大麻を所持していて麻薬取締官に逮捕されました。

私が大麻を覚えたのは大学に通っていたときでした。

その時、所属していたサークルで私によく気を掛けてくれる先輩がいて、音楽のことなどの趣味が合ったことから親しくなり、ご飯に行ったり遊んだりする仲になりました。

ある日、先輩の家に遊びに行っていた時「大麻に興味ある?」と聞かれました。大麻が違法なものであることはテレビや新聞でたまに芸能人が逮捕されたりすることを見て知っていました。しかし、その頃は好奇心旺盛な年頃でアメリカの映画等で大麻を吸っているシーンを見て「かっこいい」と思っていたので「興味ある。」と答えました。

すると先輩が「あるよ。」と言って、自宅に隠していた植物片を取り出し、「こんな風に吸うんや」と見せてくれました。その後、「吸ってみろ」と進められ、吸ってみると、酔ったような感じになりリラックスして先輩と話をするだけで楽しい気分になる感覚を覚え「こんなに楽しくなるから大麻って良いものだ」と思いました。それから暫くは、先輩から大麻を分けて貰い週に1回のペースで吸って、大麻の仕入れについては先輩

まかせでした。

ある日先輩から「だれか大麻を買ってくれるやつ知らないか？」と大麻を売りたいと言われ、いつも先輩から大麻を貰って吸わせて貰っているという負い目もありそれを手伝うことにして高校の同級生で大麻を欲しがっている者がいたので、その同級生に先輩の大麻を売りました。

その後、その同級生が警察に捕まってしまう、私も同級生に大麻を譲り渡した件で逮捕されました。当時、その事件の関連で数十名が逮捕され、大学生もかなり関係していたことから、マスコミにも取り上げられてしまいました。私も大学を退学させられました。

捕まったときに親等に迷惑を掛けたことで反省して、それから暫くは大麻と縁を切っていたのですが、27歳位のころ音楽の勉強をするためジャマイカに1ヶ月位ホームステイしたとき現地では周りの人が普通に大麻を吸っており、その国の雰囲気、国外で気が緩んで開放的になっていたこともあり、再び大麻を吸い始めてしまいました。

その国にいる間は毎日大麻を楽しみ、大麻にのめり込んでしまい帰国後も楽しみたいという気持ちから、帰国するとき大麻の種を荷物に忍ばせて持ち帰り自宅で栽培し始めました。

そういった生活を続けていた30歳のころ、警察の捜索を受けて持っていた大麻が発見され再び逮捕されてしまいました。

その時も家族等に迷惑を掛けてしまったことから、大麻を再び始めてしまったことを後悔し、大麻を止めて真面目に働こうと思い、父の薦めで電気工事士の資格を取り、35歳から大手の電機量販店の下請けの会社で働き始めました。

電気関係の仕事始めて暫くした頃、会社の人に過去に大麻で逮捕されたことがばれてしまいました。会社側としてはアルバイトなら働かせてくれるということでアルバイトとして会社に残りました。

しかし、過去に犯した大麻の罪でアルバイトの立場に降格させられ、自暴自棄になってしまい、「世間がそういう目で見るのであれば、大麻をやってしまおう」等と思い、再び大麻栽培を始めてしまいました。

それからは、収穫した大麻を毎日のように吸煙する生活をするようになり、2年間位続けていたところ、今回麻薬取締官の捜査を受け逮捕されたのでした。当然、アルバイトで行っていた電気関係の会社も辞めさせられました。

私は大麻で逮捕されて反省して止めていたのですが、暫くすると大麻の誘惑に負けて再び使用し始めて逮捕されています。今になって考えると、大学も仕事も全て大麻のせいであっています。大麻にこれまでの人生を奪われたようなものです。

さすがに今回は大麻とは一切縁を切るつもりですが、インターネットを検索すれば大麻の種子や大麻栽培キットを販売している業者を簡単に見つけられて何時でも栽培できるため、今後も不安で仕方ありません。

2. 相談窓口の事例

○相談事例

【相談概要】

相談者から彼氏が覚醒剤を使用している旨の相談があったもの。

【相談内容】

私は繁華街の居酒屋で働いています。私の彼氏が覚醒剤をやめられないので、インターネットで調べ麻薬取締部に相談にきました。

彼と一緒に住むようになってから間もないころに、彼の腕に注射の痕のような傷が多数あることに気がつきました。私の前の旦那は、覚醒剤を使う人で腕に多数の注射の痕があったので、彼も覚醒剤を使っているのではないかと疑うようになりました。前の旦那は普段優しいのですが、覚醒剤を使うと猜疑心や私に対する執着心が強くなり、私の浮気を疑って暴力を振るってくることもありました。私は前の旦那に何度も覚醒剤をやめてほしいと頼みましたが、やめることができずに結局は死別しました。

彼に注射の痕について問いただしたところ、覚醒剤を使っていることを認めました。この時は、彼に覚醒剤をやめるように言うと、覚醒剤を使わないと約束してくれました。

ところが、その後も彼は覚醒剤や注射器を持っていたり、腕に真新しい注射の痕があることが度々ありました。また、彼が覚醒剤を使うと人が変わったように暴言を吐いたり、暴力を振るうことがあり、すぐに使っていることが分かります。私が彼に覚醒剤を使っているのではないかと問いただすと、都合が悪く話題をそらすために、逆に私に対して暴力を振ってきました。そして私は、自分の身に危険を感じ、彼に家から出て行ってもらいました。

彼とは別居することにはなりましたが、その後も私と彼の関係は続き、彼が私の家や私の働く居酒屋に来ることがありました。先日、私が帰宅した際に、彼が私の家の前で待っており、私とたまたま一緒になった友人に対して、掴みかかって怒鳴り散らすということがありました。私は、彼が引き続き覚醒剤を使っており、彼の猜疑心や私に対する執着心がより一層強くなっていると感じました。私が言ってもダメで、彼がこのまま覚醒剤を使い続けていれば、いつか自分や他人を傷つけてしまうのではないかと自分の力だけでは彼に覚醒剤をやめさせることができないと思い悩み、あなた方麻薬取締部に相談することにしました。

【結果】

この相談を受けて内偵捜査を実施し、覚せい剤取締法違反被疑事件として被疑者の住居等の捜索を行った結果、同住居内から覚醒剤の発見には至らなかったものの、注射器を発見し、その後、覚醒剤使用事実で逮捕した。

なぜ、薬物乱用に走るのか。 甘い誘いに気を付けよう!

薬物乱用の甘い誘い



- 1回だけなら平気さ
- クスリでちょっと遊ぼうよ
- 面白いクスリがあるんだけど
- やせられるよ
- イライラがとれてすっきりするよ
- 肌がきれいになるよ
- 「人生は経験だ」
- 眠気がとれて、勉強ができるよ
- ちょっとだけ、ためし
てみない
- みんなやってるよ
(やってないのはきみだけ)
- ただの栄養剤だよ
- 最高の気分が味わえるよ
- とりあえず、預かってよ
- お金はこの次で
いいよ



「ダメ。ゼツタイ。」と 断る勇気を持とう。

薬物乱用を防止するために!!

- 薬物乱用の危険性は身近にあり、自分には関係ないと思わないこと。
- 誘われても「ダメ。ゼツタイ。」と断る勇気を持つこと。
- 一人で悩まないで友人や家族に何でも相談すること。

薬物乱用問題についてさらに詳しくは厚生労働省ホームページをご参照ください。「薬物乱用防止に関する情報のページ」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/index.html> QRコードで携帯電話でもご覧いただけます。▶▶▶



あやしいヤクブツ連絡ネット

指定薬物を含む危険ドラッグ等に関連する健康被害事例等の収集、分析、評価を行い、公表、注意喚起を行っています。また、コールセンターで相談対応を行い、一元的に危険性等の情報にアクセスできます。

薬物の乱用でお困りのことがあれば <http://www.yakubutsu.com>

コールセンター 03-5542-1865

